

# 沖縄県うるま市津堅方言の条件表現について

—*-riba*形と*-ine*形の形態論的記述と条件表現に関する言語資料—

又 吉 里 美

## 1. はじめに

日本語において、条件表現は条件形の形態で表されるが、条件形は動詞パラダイムにおける、機能による語形変化のカテゴリーの一つである。現代日本語の共通語の動詞パラダイムにおいては、「-ば」「-なら」「-たら」「-と」の4つの形態がある。一方、津堅方言では、*-riba*形と*-ine*形の2つの形態が認められる。本稿では、動詞、形容詞、コピュラにおける*-riba*形と*-ine*形の形態論的記述を行い、*-riba*形、*-ine*形を中心とする条件表現に関する言語資料を提示する。

## 2. 津堅方言の条件形の構造

津堅方言の動詞パラダイムにおける条件形としては、*-riba*形と*-ine*形の2つの形態を有する。基本構造については、下記の表1に示すとおりである。

両形の構造は、*-riba*形が「基本語幹<sup>\*1</sup> *-iba*」、*-ine*形が「連用語幹*-ine*」となり、接続する語幹の違いがある。また、*-riba*形は、基本語幹に接続させる場合、*r*音を脱落させる。具体的に見てみると、*jumuN*(読む)の基本語幹*jum-*に*-riba*をそのまま接続させると、*jumriba*となり、子音連続になる。津堅方言の音構造は日本語と同様にCV構造を基本とする。したがって、子音連続を避けるために*r*音を脱落させて*-iba*の形で接続させることになる。

また、否定形は両形ともに文末終止の否定形でもある形に接辞*-riba*、*-ine*を接続させる。たとえば、*jumuN*の否定形は*jumaN*であり、その*jumaN*という形態に*-riba*を接続させて*jumaNriba*とする。ただし、*-ine*形では音声変化を生じさせる。*-ine*形は、否定形接辞*-aN*の*N*を脱落させた形態に*-ine*を接続させる。*jumuN*の否定形*jumaN*に*-ine*を接続させる場合、*jumaN*の語末音*N*を脱落させて*-ine*を接続させて*jumaine*とする。

表1 動詞活用タイプ<sup>\*2</sup>と条件形の構造

		強変化動詞A <i>jumuN</i> (読む)	強変化動詞B <i>kaNzjuN</i> (かぶる)	混合変化動詞A <i>ukiN</i> (起きる)	混合変化動詞B <i>uwaiN</i> (終わる)
条件形1	肯定	<i>jum-iba</i> 基本-CONDb	<i>kaNr-iba</i> 基本- <i>iba</i>	<i>ukir-iba</i> 基本- <i>iba</i>	<i>uwar-iba</i> 基本-CONDb
	否定	<i>jum-aN-riba</i> 基本-NEG-CONDb	<i>kaNr-aN-riba</i> 基本-NEG-CONDb	<i>ukir-aN-riba</i> 基本-NEG-CONDb	<i>uwar-aN-riba</i> 基本-NEG-CONDb

条件形2	肯定	<i>jum-ine</i> 連用-CONDn	<i>kaNz-ine</i> 連用-CONDn	<i>uki-ine</i> 連用-CONDn	<i>uwa-ine</i> 連用-CONDn
	否定	<i>jum-a-ine</i> 基本-NEG-CONDn	<i>kaNr-a-ine</i> 基本-NEG-CONDn	<i>ukir-a-ine</i> 基本-NEG-CONDn	<i>uwar-a-ine</i> 基本-NEG-CONDn

※表中の基本 = 基本語幹、連用 = 連用語幹である。

続いて、形容詞パラダイムにおける条件形を見てみると、動詞と同じく *-riba*形と、*-ine*形の2つの形態を持つ。基本構造は表2に示すとおりである。津堅方言の形容詞の基本形は *taka-ha-N*(高い) で、語根に形容詞化接辞 *-ha* を接続させる。条件形は、*-riba*形、*-ine*形ともに、形容詞化接辞の *-ha*(基底形)<sup>\*3</sup>に *-riba*、*-ine* を接続させる。

また、否定形は両形ともに文末終止の否定形でもある形に接辞 *-riba*、*-ine* を接続させる。この構造は、先述した動詞条件形の否定形の構造と同じである。具体的に見ると、*takahaN*の否定形は *takakunaN*であり、その *takakunaN* という形態に *-riba* を接続させて *takakunaNriba* とする。また、*-ine*形の否定形においても、動詞のパターンと同様に、否定形接辞 *naN*の *N* を脱落させた形態に *-ine* を接続させる。すなわち、*takahaN*の否定形 *takakunaN* に *-ine* を接続させる場合、*takakunaN*の語末音 *N* を脱落させて *-ine* を接続させて *takakunaine* とする。

さらに、コピュラの構造においても基本的には動詞や形容詞と同様である。津堅方言のコピュラは *jaN*であるが、コピュラの条件形としては語根 *ja* に接辞 *-riba*、*-ine* を接続させる。例えば、「雨ならば」は *ami ja-riba*、*ami ja-ine* となる。ところで、コピュラ *jaN*の否定形は、「ある」に対応する *aN* が形態変化した *araN*(*ar-aN*、語幹-否定形接辞) の形をとる。したがって、「雨でない」は *ami araN* となる。コピュラの条件形の否定形は *araN* に *-riba*、*-ine* を接続させる。具体的には、*ami jariba*の否定形は、*ami ar-aN-riba* となる。また、*ami ja-ine*の否定形は動詞や形容詞の *-ine*形の否定形と同様に、否定形接辞 *aN*の *N* を脱落させて *-ine* を接続させ、*ami ar-a-ine* とする。

表2 形容詞とコピュラの条件形の構造

	形容詞 <i>takahaN</i> (高い)	コピュラ <i>jaN</i> (だ)
肯定	<i>taka-a-riba</i> ( <i>taka-ha-riba</i> ) 語根-ADJ-CONDb	( <i>ami</i> ) <i>ja-riba</i> (雨) 語根-CONDb
否定	<i>taka-ku-naN-riba</i> 語根-INF-NEG-CONDb	( <i>ami</i> ) <i>ar-aN-riba</i> (雨) 語幹-NEG-CONDb
肯定	<i>taka-a-ine</i> ( <i>taka-ha-ine</i> ) 語根-ADJ-CONDn	( <i>ami</i> ) <i>ja-ine</i> (雨) 語根-CONDn

否定	<i>taka-ku-na-ine</i> 語根-INF-NEG-CONDn	( <i>ami</i> ) <i>ar-a-ine</i> (雨) 語幹-NEG-CONDn
----	---	--

なお、琉球方言では一般的に形容動詞を発達させておらず、津堅方言においても形容動詞は未発達である。形容動詞的な形態として *deezina* (大事な)、*teesicina* (大切な) などが見られるが、数も少なく、亀井他 (1997) \*<sup>4</sup>でも指摘されるように、*-na*の接辞は本土方言からの借用と見なされる。それらも、語根 *deezi*、*teesici* の用法の他、コピュラ *jaN* を伴って、*deezi jaN*、*teesici jaN* の形態およびその活用形態で現れることも多い。

津堅方言における条件形の形態論的特徴をまとめれば、次のとおりである。

- 1) 動詞、形容詞、コピュラともに条件形の肯定形は語幹、形容詞化接辞、語根など、屈折途中の段階で接辞 *-riba*、*-ine* を接続させる。ただし、動詞に *-riba* を接続させる場合は基本語幹末が子音なので、*-riba* の *r* 音を脱落させた *-iba* 形を接続させる。
- 2) 条件形の否定形は、動詞、形容詞、コピュラともに、叙述法の文末終止否定形に接辞 *-riba*、*-ine* を接続させる。ただし、*-ine* 形は、否定形接辞の末尾音の *N* を脱落させて *-ine* を接続させる。

### 3. 津堅方言の条件表現に関する言語資料—グロス付き資料—

方言研究において、条件表現に関する研究はあまり盛んとは言えない。そのような状況にあって、日高水穂氏を代表者とした「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」の研究に条件表現が対象として取り扱われていることは意義深いものである。また、その研究成果として、『『全国方言文法辞典』のための条件表現・逆接表現調査ガイドブック』(2010) が刊行されている。特に、諸方言の文法を記述することを目指して作成された統一調査票が掲載されており、さらには調査項目には調査観点が示されているので、大いに活用できるものと思われる。

本稿では、その調査表を用いて行った調査\*<sup>5</sup>のデータの一部\*<sup>6</sup>を言語資料として示す。資料は、方言文例と文法情報であるグロスを中心に提示し、調査文例と大きく異なる文にのみ訳を加えた。資料中の条件表現の形態の多くは *-riba* 形、*-ine* 形である。*-riba* 形と *-iba* 形は相互に入れ替えが可能で機能は非常に類似しているが、全ての項目において入れ替えが可能というわけではない。ただし、入れ替えの可・不可については厳密には調査していない。話者が回答したものを提示してある。また、一部、原因・理由表現に関わる形態が見られ、条件表現と原因・理由表現との関係性をうかがわせるものがある。

以下、調査表の番号、項目名や調査観点などを調査表の表示のままに掲げ

て、調査データを提示する。なお、調査文例の後の「\*」は調査の優先度の低い項目であることを示す記号である。

### 1-1仮説的用法（予測的条件）

〈基本用法〉（接続調査、後件のモダリティ制限調査を兼ねる）

(01) あした雨が降れば、船は出ないだろう。（動詞述語、推量）〈GAJ178〉

asa ami=nu pu-ine punee Nzir-aN-ra=hazi=roo  
明日 雨=NOM 降る-CONDn 船.TOP 出る-NEG-ADN=INFR=SFP

(02) あした雨が降らなければ、船は出るだろう。（動詞否定述語、推量）

asa ami=φ pur-aN-riba punee Nzi-i-ra=hazi=roo  
明日 雨=NOM 降る-NEG-CONDb 船.TOP 出る-NPST-ADN=INFR=SFP

(03) あした波が高ければ、船は出ないだろう。（形容詞述語、推量）

asa nami=nu taka-a-riba punee Nzir-aN-ra=hazi=roo  
明日 波=NOM 高い-ADJ-CONDb 船.TOP 出る-NEG-ADN=INFR=SFP

asa nami=nu taka-a-ine punee Nzir-aN-ra=hazi=roo  
明日 波=NOM 高い-ADJ-CONDb 船.TOP 出る-NEG-ADN=INFR=SFP

(04) あした波が静か {であれば／なら}、船は出るだろう。

（形容動詞述語、推量）

asa nami=nu ji-ine punee Nzi-ru=hazi=roo  
明日 波=NOM 座る-CONDn 船.TOP 出る-ADN=INFR=SFP

{note:直訳は「明日、波が座れば（=波がなければ）船は出るだろう。」である。波があることをnami=nu tas-uN(波が立つ)と言う。「座る」を「立つ」の対義語として見なして、波がない状況をnami=nu ji-iN(波が座る)と言い表した表現である。}

(05) あした雨 {であれば／なら}、船は出ないだろう。（名詞述語、推量）

asa ami ja-riba punee Nzir-aN-ra=hazi=roo  
明日 雨 COP-CONDb 船.TOP 出る-NEG-ADN=INFR=SFP

(06) これだけ降れば、水不足にはならないだろう。\*

（動詞述語：前件が事実、推量）

usanaa pu-ine mizibusuku+haN=jo  
これだけ 降る-CONDn 水不足+する.NEG=SFP  
usanaa pur-iba mizibusuku+haN=jo

これだけ 降る-CONDb 水不足+する.NEG=SFP

*usanaa ami=φ pu-iNzja-muN mizibusuku+haN=jo*

これだけ 雨=NOM 降る-PROG-CSLm 水不足+する.NEG=SFP

[note:訳は「これだけ降れば、水不足しないよ」である。]

(07) 雨さえ止めば、船は出るだろう。\*(動詞述語:最低条件、推量)

*ami=ga pur-aN-riba punee Nzi-i=ru hu-u-ru*

雨=NOM 降る-NEG-CONDb 船.TOP 出る-SEQ1=FOC する-NPST-ADN

*ami=nu pur-a-ine punee Nzi-i=ru hu-u-ru*

雨=NOM 降る-NEG-CONDn 船.TOP 出る-SEQ1=FOC する-NPST-ADN

[note:訳は「雨が降らなければ、船は出るだろう」である。「雨さえ止めば」は*amiga puraNriba*のように「雨が降らなければで表される。」]

(08) 努力すれば、できるようになる。(動詞述語、断定)

*dorjoku+hi-ine nuujatiN na-ti+suu-wa*

努力+する-CONDn 何でも なる-SEQ2+来る.NPST-IND3

*dorjoku+hi-iba nuukui na-ti=ru suu-ru*

努力+する-CONDb 何でも なる-SEQ2=FOC 来る.NPST-ADN

(09) ご飯を食べたら、歯を磨け。(動詞述語、命令)

*muN=φ ka-ti atu paa=φ ara-i=bee*

もの(=ご飯)=ACC 食べる-SEQ2 後 歯=ACC 洗う-IMP=SFP

*muN=φ ka-ti atu=kara paa=φ ara-ti+kuu=be*

もの(=ご飯)=ACC 食べる-SEQ2 後=ABL 歯=ACC 洗う-SEQ2+来る.IMP=SFP

*muN=φ ka-ti=kara paa=φ ara-i=be*

もの(=ご飯)=ACC 食べる-SEQ2=CSLk 歯=ACC 洗う-IMP=SFP

*muN=φ keeba paa=φ ara-ti+kuu=be*

の(=ご飯)=ACC 食べる.CONDb 歯=ACC 洗う-SEQ2+来る.IMP=SFP

(10) 駅に着いたら、電話をしてくれ。(動作性動詞述語、依頼)

*eki=Nka sik-iba deNwa+hii=jo*

駅=LOCK 着く-CONDb 電話+する.IMP=SFP

*eki=Nka sik-ine deNwa+hii=jo*

駅=LOCK 着く-CONDn 電話+する.IMP=SFP

(11) 道がわからなければ/かったら、電話をしてくれ。

(状態性動詞述語、依頼)

<i>misi=ga</i>	<i>wakar-aN-riba</i>	<i>deNwa+hii=jo</i>
道=NOM	分かる-NEG-CONDb	電話+する.IMP=SFP
<i>misi=φ</i>	<i>wakara-ine</i>	<i>deNwa+hii=jo</i>
道=NOM	分かる.NEG-CONDn	電話+する.IMP=SFP

(12) 大人になつたら、パイロットになりたい。(動詞述語、希望)

<i>uhucu nar-iba</i>	<i>pairotto=ni</i>	<i>na-i+busa-N</i>
大人 なる-CONDb	パイロット=DAT	なる-NPST+欲しい-IND1
<i>uhucu na-ine</i>	<i>paorotto=φ</i>	<i>na-i+busa-N=jaa</i>
大人 なる-CONDn	パイロット=DAT	なる-NPST+欲しい-IND1=SFP

[note:*naibusaN*で「なりたい」を意味する。*busaN*は元々は*pusaN*で「欲しい」の意味である。]

(13) [独り言で]これが終わつたら、ちょっと休憩しよう。(動詞述語、意志)

<i>naa uri=ga</i>	<i>uwa-ti=kara</i>	<i>naa</i>	<i>juku-i=ru</i>	<i>huu-ru</i>
DSC これ=NOM	終わる-SEQ2=CSLk	DSC	休む-SEQ1=FOC	する.NPST=ADN
<i>naa uri=ga</i>	<i>uwar-iba</i>	<i>naa ippe</i>	<i>juku-i=ru</i>	<i>huu-ru</i>
DSC これ=NOM	終わる-CONDb	DSC 少し	休む-SEQ1=FOC	する.NPST=ADN

(14) 仕事が終わつたら、飲みにいこうよ。(動詞述語、勧誘)

<i>sigutu=nu</i>	<i>uwar-iba</i>	<i>num-i-ga</i>	<i>ik-a=jaa</i>
仕事=NOM	終わる-CONDb	飲む-SEQ1-PURP	行く-INT=SFP
<i>sigutu=φ</i>	<i>uwa-ine</i>	<i>num-i-ga</i>	<i>ik-a=jaa</i>
仕事=NOM	終わる-CONDn	飲む-SEQ1-PURP	行く-INT=SFP

〈後件の反期待性〉

(15) そんな暗いところで本を読んだら／むと、目を悪くするよ。(警告)

<i>kurasimi=Nzi</i>	<i>hoN=φ</i>	<i>jum-u-ine</i>	<i>mii=φ</i>	<i>wasa-ku</i>	<i>na-i-N=ro</i>
くらがり=LOCz	本=ACC	読む-NPST-CONDn	目=NOM	悪い-INF	なる-NPST-IND1=SFP
<i>kurasimi=Nzi</i>	<i>hoN=φ</i>	<i>jum-iba</i>	<i>mii=φ</i>	<i>wasa-ku</i>	<i>na-i-N=ro</i>
くらがり=LOCz	本=ACC	読む-CONDb	目=NOM	悪い-INF	なる-NPST-IND1=SFP

(16) お前が行つたら／くと、その話はだめになりそうだ。(懸念) 〈GAJ182〉

<i>?jaa=ga</i>	<i>ama=si</i>	<i>ik-ine</i>	<i>uri</i>	<i>panasjee</i>	<i>wasa-ku</i>	<i>na-i-ra=hazi=ro</i>
お前=NOM	あそこ=ALL	行く-CONDn	その	話.TOP	悪く-INF	なる-NPST-ADN=INFR=SFP
<i>?jaa=ga</i>	<i>ama=si</i>	<i>ik-iba</i>	<i>uri</i>	<i>panasjee</i>	<i>wasa-ku</i>	<i>na-i-ra=hazi=ro</i>
お前=NOM	あそこ=ALL	行く-CONDb	その	話.TOP	悪く-INF	なる-NPST-ADN=INFR=SFP

(17) お前が行 {かなければ／かないと}、その話はだめになりそうだ。(懸念)

<i>?jaa=ga</i>	<i>ika-ine</i>	<i>uri</i>	<i>panasjee</i>	<i>wasa-ku</i>	<i>na-i-ra=hazi=ro</i>
お前=NOM	行く.NEG-CONDn	その	話.TOP	悪く-INF	なる-NPST-ADN=INFR=SFP
<i>?jaa=ga</i>	<i>ik-aN-riba</i>	<i>uri</i>	<i>panasjee</i>	<i>wasa-ku</i>	<i>na-i-ra=hazi=ro</i>
お前=NOM	行く.NEG-CONDb	その	話.TOP	悪く-INF	なる-NPST-ADN=INFR=SFP

〈疑問語との共起〉

(18) どのボタンを押 {せば／したら}、おつりが出る。(従属節)

<i>ziru</i>	<i>botaN=φ</i>	<i>usur-iba</i>	<i>otsuri=ga</i>	<i>Nzi-ti+suu-ga=ja</i>
どの	ボタン=ACC	押す-CONDb	おつり=NOM	出る-SEQ2+来る.NPST-Q=SFP
<i>ziru</i>	<i>botaN=φ</i>	<i>usu-ine</i>	<i>otsuri=ga</i>	<i>Nzi-ti+suu-ga=ja</i>
どの	ボタン=ACC	押す-CONDn	おつり=NOM	出る-SEQ2+来る.NPST-Q=SFP

(19) だれに聞 {けば／いたら}、わかるかな。\*(従属節)

<i>taa=ni</i>	<i>kik-iba</i>	<i>waka-i-ga=ja</i>
誰=DAT	聞く-CONDb	分かる-NPST-Q=SFP
<i>taa=ni</i>	<i>kik-ine</i>	<i>waka-i-ga=ja</i>
誰=DAT	聞く-CONDn	分かる-NPST-Q=SFP

(20) いつなら、来られる？\*(疑問語に後接)

<i>isi</i>	<i>ja-riba</i>	<i>kiiu-ree</i>
いつ	COP-CONDb	来る.POT-Q
<i>isi</i>	<i>ja-ine</i>	<i>kiiu-ree</i>
いつ	COP-CONDn	来る.POT-Q

(21) このボタンを押 {したら／すと}、どうなる？(主節)

<i>uri</i>	<i>botaN=φ</i>	<i>usu-ine</i>	<i>isaa</i>	<i>na-i-ga=jaa</i>
この	ボタン=ACC	押す-CONDn	どう	なる-NPST-Q=SFP
<i>uri</i>	<i>botaN</i>	<i>usur-iba</i>	<i>isaa</i>	<i>na-i-ga=jaa</i>
この	ボタン=ACC	押す-CONDb	どう	なる-NPST-Q=SFP

1-2仮説的用法 (認識的条件:「なら」の独自用法)

〈前件は受け取ったばかりの情報〉(接続調査を兼ねる)

(22) 今日の飲み会、山本さんが来るなら、私も行こうかな。(動詞述語・予定)

<i>suu=nu</i>	<i>muee=si</i>	<i>kiNzjoosaN=ga</i>	<i>suur-iba</i>	<i>wanuN</i>	<i>ik-u-ga=jaa</i>
今日=GEN	もあい=ALL	金城さん=NOM	来る-CONDb	私.ADD	行く-NPST-Q=SFP
<i>suu=nu</i>	<i>muee=si</i>	<i>kiNzjoosaN=ga</i>	<i>ki-ine</i>	<i>wanuN</i>	<i>ik-u-ga=jaa</i>

(18)

今日=GEN もあい=ALL 金城さん=NOM 来る-CONDn 私,ADD 行く-NPST-Q=SFP  
 [note:直訳は「今日のもあいに金城さんが来るなら、私も行こうかな。」である。  
 「もあい」は、金銭の相互扶助である。毎月一定の金額を出し合って、  
 順番で受け取るシステムであるが、金額を出し合うだけでなく、金銭を集め  
 るときに飲食を共にすることも多い。]

(23) [隣の家に泥棒が入ったと聞いて]

隣に入ったなら、うちも気をつけないといけないな。

(動詞過去形述語・過去の事実)

<i>tunai=Nka</i>	<i>icc-u-riba</i>	<i>wattaa=N</i>	<i>kiisikir-aN-riba</i>	<i>nar-aN</i>
隣=DAT	入る.NPST-CSLm=SFP	私達=ADD	気をつける-NEG-CONDb	なる-NEG
<i>tunai=si</i>	<i>nusuru=nu</i>	<i>iccu-muN=nu</i>	<i>biti kiisikir-aN-riba</i>	<i>nar-aN</i>
隣=ALL	泥棒=NOM	入る.NPST-CSLm=SFP	私達 気をつける-NEG-CONDb	なる-NEG

(24) [値段を聞いて]そんなに高いなら、買わない。(形容詞述語) <GAJ89改>

<i>aNci</i>	<i>takaa-riba</i>	<i>koor-aN</i>
こんなに	高い-CONDb	買う-NEG
<i>aNci</i>	<i>takaa-ine</i>	<i>koor-aN</i>
こんなに	高い-CONDn	買う-NEG
<i>aNci</i>	<i>takaa-muN=nu</i>	<i>koor-aN</i>
こんなに	高い-CSLm=SFP	買う-NEG

(25) そこがそんなに静かなら、おれも住んでみたい。(形容動詞述語)

<GAJ90>

<i>aNci</i>	<i>sizuka</i>	<i>ja-riba</i>	<i>wanu=N</i>	<i>sumi+busa-N</i>
こんなに	静か	COP-CONDb	私=ADD	住む+欲しい-IND1
<i>aNci</i>	<i>sizukaka</i>	<i>ja-ine</i>	<i>wanu=N</i>	<i>sumi+busa-N</i>
こんなに	静か	COP-CONDn	私=ADD	住む+欲しい-IND1
<i>aNci</i>	<i>sizuka</i>	<i>ja-muN=nu</i>	<i>wanu-N</i>	<i>sumi+busa-N=ja</i>
こんなに	静か	COP-CSLm=SFP	私=ADD	住む+欲しい-IND1=SFP

(26) そんなにおもしろい本なら、おれも読みたい。(名詞述語)

<i>aNci</i>	<i>iirukee-ru</i>	<i>hoN</i>	<i>ja-riba</i>	<i>wanu=N</i>	<i>jumi+busa-N</i>
こんなに	おもしろい-ADN	本	COP-CONDb	私=ADD	読む+欲しい-IND1
<i>aNci</i>	<i>iirukee-ru</i>	<i>hoN</i>	<i>ja-ine</i>	<i>wanu=N</i>	<i>jumi+busa-N</i>
こんなに	おもしろい-ADN	本	COP-CONDn	私=ADD	読む+欲しい-IND1

〈前件と後件の時間的前後関係〉(その方言に「なら」相当形式と「のなら」相当形式の両方があるかどうかの確認を兼ねる)

(27) [自分が今読んでいる本を読みたそうにしている友人に]

読む(の)なら、貸すよ。(後件→前件、申し出)

<i>jum-i+busa-riba</i>		<i>karah-u-N=ro</i>
読む-SEQ1+欲しい-CONDb		貸す-NPST-IND1=SFP
<i>?jaa=ga</i>	<i>jum-i+busa-ine</i>	<i>karah-u-N=ro</i>
お前=NOM	読む-SEQ1+欲しい-CONDn	貸す-NPST-IND1=SFP

(28) 手紙を書く(の)なら、字をきれいに書いてくれ。\*(前件=後件、依頼)  
 〈GAJ88〉

<i>tigami</i>	<i>kak-u-riba</i>	<i>sura+zii=ru</i>	<i>kak-u-N=ro</i>	
手紙	書く-NPST-CONDb	美しい+字=FOC	書く-NPST-IND1=SFP	
<i>tigami</i>	<i>kak-ine</i>	<i>sura-zii=ru</i>	<i>kak-u-N=ro</i>	
手紙	書く-CONDn	美しい+字=FOC	書く-NPST-IND1=SFP	
<i>tigami</i>	<i>kak-u-ru-muN</i>	<i>ja-riba</i>	<i>sura+zii=ru</i>	<i>kak-u-N=ro</i>
手紙	書く-NPST-ADN-CSLm	COP-COND	美しい+字=FOC	書く-NPST-IND1=SFP

(29) 郵便局に行く(の)なら、切手を買ってきてくれ。\*(前件→後件、依頼)

<i>juubiNkjoku=si</i>	<i>ik-u-riba</i>	<i>kitte=φ</i>	<i>koo-ti+kuu=jo</i>
郵便局=ALL	行く-NPST-CONDb	切手=ACC	買う-SEQ2+来る.IMP=SFP
<i>juubiNkjoku=si</i>	<i>ik-ine</i>	<i>kitte=φ</i>	<i>koo-ti+kuu=jo</i>
郵便局=ALL	行く-CONDn	切手=ACC	買う-SEQ2+来る.IMP=SFP

### 1-3反事実的条件

(30) もっと早く来れば、間に合ったのに。

<i>hee-ku</i>	<i>kuuba</i>	<i>maniala-i-ta-muN=nu</i>
早く-INF	来る.CONDb	間に合う-NPST-PST-CSLm=SFP
<i>hee-ku</i>	<i>ki-ine</i>	<i>maniala-i-ta-muN=nu</i> (誘導・確認)
早く-INF	来る-CONDn	間に合う-NPST-PST-CSLm=SFP

(31) もっと注意していれば、けがはしなかつたろうに。\*

<i>naa</i>	<i>ipee</i>	<i>kisikituk-iba</i>	<i>kega+haN-ta-N=te</i>
もう	ちょっと	気をつけておく-CONDb	ケガ+する.NEG-PST-IND1=SFP
<i>naa</i>	<i>ipee</i>	<i>kisikituk-ine</i>	<i>kega+haN-ta-N=te</i>
もう	ちょっと	気をつけておく-CONDn	ケガ+する.NEG-PST-IND1=SFP

(32) こんなに寒いなら、コートを着て来るんだっただ。(前件が事実)

*aNci pihja-ta-riba kooto=φ ki-si+suu-ta=muN*  
こんなに 寒い-PST-CONDb コート=ACC 着る-SEQ2+来る.NPST-PST=SPF

#### 1-4一般条件

(33) 氷か溶け れば／ると、水になる。(自然)

*koori=ga tuk-ine mizi=ru na-i-ru*  
氷=NOM 溶ける-CONDn 水=FOC なる-NPST-ADN

(34) だれだって年を取 れば／ると、具合の悪いところも出てくる。(人事)

*taa ja-ti-N tusi-φ tu-ti+ik-ine*  
誰 COP-SEQ2-ADVRS 年=ACC 取る-SEQ2+行く-CONDbn

*maa ja-ti-N jam-i=ru hu-u-ru*  
どこ COP-SEQ2-ADVRS 病む-SEQ1=FOC する-NPST-ADN

*taa ja-ti-N tusi-φ tu-ti+ik-iba*  
誰 COP-SEQ2-ADVRS 年=ACC 取る-SEQ2+行く-CONDb

*maa ja-ti-N jam-i=ru hu-u-ru(誘導・確認)*  
どこ COP-SEQ2-ADVRS 病む-SEQ1=FOC する-NPST-ADN

[note:直訳は「誰でも、年取っていけば、どこでも病みぞする (=いろいろなところが痛む)」である。]

#### 1-5反復習慣

(35) あの人の家に行くと、いつもごちそうしてくれる。(現在) <preGAJ152>

*ama=nu jaa=si ik-ine hiccii kwaccii=φ simirar-u-N*  
あそこ=GEN 家=ALL 行く-CONDn しょっちゅう ごちそう=ACC させられる-NPST-INDI

*ama=nu jaa=si ik-iba hiccii kwaccii=φ simirar-u-N(誘導・確認)*  
あそこ=GEN 家=ALL 行く-CONDb しょっちゅう ごちそう=ACC させられる-NPST-INDI

(36) 昔は学校から帰ると、毎日家の手伝いをしたものだ。(過去)

*mukasjee gakkoo=kara kee-ti+kuuba*  
昔.TOP 学校=ABL 帰る-SEQ2+来る.COND

*ujaNsaa=ga kasi=ru simirar-u-ta-ru*  
親たち-GEN 手伝い=FOC させられる-NPST-PST-ADN

[note:直訳は、「昔は学校から帰って来れば、親たちの手伝いぞさせられた」である。]

#### 1-6前置き

(37) 今思えば、若いころはずいぶんむちゃをしたなあ。

*nama um-iba waka-a-i=ni=ja ruukatti+suu-ta-N=ja*  
今 思う-CONDb 若い-ADJ-ADN=DAT=TOP 自分勝手+する.NPST-PST-IND1=SFP  
[note:直訳は「今思えば、若い頃は自分勝手をしたな。」である。]

(38) そこへ行ったら、もう会は終わっていた。(発見) (GAJ184)

*waa=ga ik-u-ru=mari=Nzi asimai=ja uwa-tu-ta-N*  
私=NOM 行く-NPST-ADN=LMT=LOCz 集まり=TOP 終わる-PROG-PST-IND1

(39) 昨日、散歩をしていたら、急に雨が降ってきた。\*(発見)

*kinuu waa=ga uma akkaa+akkaa+huu-ru=nagee=Nzi*  
昨日 私=NOM そこ 歩き+歩き+する.NPST-ADN-長さ=LOCz

*ami=φ pu-ti+kisu-ta-N*  
雨=NOM 降る-SEQ2+来る.NPST-PST-IND1

*kinuu waa=ga uma akkaa+akkaa+huu-ru=mari=Nzi*  
昨日 私=NOM そこ 歩き+歩き+する.NPST-ADN=LMT=LOCz

*ami=φ pu-ti+kisu-ta-N*  
雨=NOM 降る-SEQ2+来る.NPST-PST-IND1

[note:「歩いている途中で雨が降ってきたという意味。】-*riba*形を用いると、*akka+akka+hi-iba keNkoo=φ na-i-N*「散歩すると健康になる」というように因果関係を示す文脈で使用されることが一般的である。]

(40) 犬にえさをやったら、喜んで食べた。\*(きっかけ)

*iN=ni muN ki-ta-gutu iso-zi kwo-ta-N*  
犬=DAT モノ=ACC やる-PST-CSLg 喜ぶ-SEQ2 食べる.NPST-PST-IND1

[note:上記の場合、「経験・体験して初めて分かったこと」として表される。一方、-*riba*形や-*ine*形を使うと、*iN=ni muN=φ kir-iba /ki-ine isog-u-N=tee*「犬にえさをやると喜ぶよ」と、犬にえさをやると喜ぶということが分かっている場合に用いられる。]

(41) [眠れないと思ったけれど]布団に入ったら、すぐ寝てしまった。\*(連続)

*hutoN=si icca-gutu sugu niN-ti+Nzj-u-N*  
布団=ALL 入る.PST-CSLg すぐ 寝る-SEQ2+行く-NPST-IND1

(42) 冷やして飲むと、おいしいね。(評価)

*sama-ci=kara num-iba mmaa-ha-N=ro*  
さます-SEQ2=CSLk 飲む-CONDb おいしい-ADJ-IND1=SFP

*sama-ci=kara*            *mum-ine*            *mmaa-ha-N=ro* (誘導・確認)  
 きます-SEQ2=CSLk    飲む-CONDn        おいしい-ADJ-IND1=SFP

(43) [難しい試験で80点を取った子どもに]  
 いや、それだけでできれば、たいしたものだよ。(評価)

*usanaa*    *teNsuu=φ*    *tu-tu-ru-muN=nu*            *zjootuu*    *ja-ha*  
 こんなに    点数=ACC    取る-PROG-ADN-CSLm=SFP    上等        COP-IND2

(44) 畑に行けば蜂に刺されるし、山に行けばへびに咬まれるし、たいへんな目にあった。(事態の連続の反復)

*pataki=si*    *ik-ine*            *paci=ni*            *sakar-u-i*  
 畑=ALL    行く-CONDn    蜂=DAT        刺される-NPST-REC  
*jama=si*    *ik-ine*            *habu=ni*            *kuurar-u-i*            *uturuhat-ta-N=ro*  
 山=ALL    行く-CONDn    へび=DAT        咬まれる-NPST-REC    おそろしい-PST-IND1=SFP

#### 1-8並列・列挙用法

(45) 机の上には、リングもあれば、柿もある。(同時成立)

*tsukue=nu*    *ii=Nka*            *riNgo=N*            *a-i*            *kaki=N*    *a-N=ro*  
 机=GEN    上=LOCK    リング=ADD    ある-REC    柿=ADD    ある-IND1=SFP  
 {note:直訳は「机の上にリングがあり、柿もあるよ。」である。}

(46) 江戸が政治の中心なら、大坂は商業の中心だ。(対比)

*tookjoo=ja*    *seihu=nu*            *uma*            *ja-ine*  
 東京=TOP    政府=GEN    そこ            COP-CONDn  
*mata*            *oosaka=ja*            *keizai=nu*            *uma=ru*            *ja-N=ro*  
 また            大阪=TOP    経済=GEN    そこ=FOC        COP-IND1=SFP  
 {note:直訳は「東京は政治の場所であれば、大阪は経済の場所ぞであるよ。」である。}

(47) 親も親なら子も子だ。

*uja=N*            *uja*            *ja-ha*            *kwa=N*            *kwa*            *ja-haa*  
 親=ADD    親            COP-IND2        子=ADD        子            COP-IND2  
*uja=N*            *uja*            *ja-riba*            *kwa=N*            *kwa*            *ja-ha*  
 親=ADD    親            COP-CONDb      子=ADD        子            COP-IND2

#### 1-9テワ類調査項目 (テワ類の形式がある場合確認)

〈仮定条件〉

(48) そんな暗いところで本を読んでは、目を悪くするよ。(= (15))

(49) お前が行っては、その話はだめになりそうだ。(= (16))

(50) お前が行かなくては、その話はだめにそうだ。(= (17))

(51) こんなに雨が降っては、仕事にならない。(動詞述語)

*aNciami pu-iNzja-munu sigutu=φ nar-aN=ro*  
こんなに 雨=NOM 降る-PROG-CSLm 仕事=TOP なる-NEG=SFP  
[note:直訳は「こんなに雨が降っているので、仕事にならないよ。」である。]

(52) こんなに頭が痛くては、働けない。(形容詞述語)

*aNci siburu=φ ja-ri Nzjuk-i-hij-aN*  
こんなに 頭=NOM 病む-SEQ2 動く-SEQ1-POT-NEG  
*aNci siburu=φ jam-u-gutu Nzjuk-ar-aN*  
こんなに 頭=NOM 病む-NPST-CSLg 動く-POT-NEG  
*aNci siburu=φ jam-u-muN=nu Nzjuk-ar-aN*  
こんなに 頭=NOM 病む-NPST-CSLm=SFP 動く-POT-NEG  
[note:直訳は、「こんなに頭が痛いので、働けない」である。]

(53) こんなに静かでは、落ち着かない。(形容動詞述語)

*aNci sizjuka ja-gutu utisik-ar-aN*  
こんなに 静か COP-CSLg 落ち着く-POT-NEG  
*aNci sizjuka ja-muN=nu utisik-ar-aN*  
こんなに 静か COP-CSLm=SFP 落ち着く-POT-NEG  
[note:直訳は、「こんなに静かなので、落ち着かない。」である。]

(54) こんなに小さな子どもでは、この荷物は持てない。(名詞述語)

*warabi ja-gutu mu-si+hij-aN=ro*  
子ども COP-CSLg 持つ-SEQ2+POT-NEG=SFP  
[note:直訳は「子どもなので持てないよ。」である。)]

*warabi=ga=ja mu-si+hij-aN=ro*  
子ども=NOM=TOP 持つ-SEQ2+POT-NEG=SFP

〈反復〉

(55) 何度も振り返っては手を振った。

*kusaa=φ ikukee mii-mii+suu-ti tii=φ pu-i-ta-N*  
後ろ=ACC 何度も 見る-見る+する-SEQ2 手=ACC 振る-NPST-PST-INDI  
[note:直訳は、「後ろを何度も見る見るして (=何度も見て) 手を振った。」]

(24)

である。}

(56) 子どもの頃は、いたずらをしては、先生に怒られた。

*warabi+sui=ni ooe+si seNsee=ni nuraa-ta-N*

子ども+する.SEQ1=DAT けんか+する.SEQ1 先生=DAT 怒られる-PST-IND1

{note:直訳は「子どものころはけんかして、先生に怒られた。」である。}

(57) 書いては破り、破つては書き、やっと手紙を書き上げた。

*kak-iba mata ja-ti ja-riba mata kak-i*

書く-CONDb また 破る-SEQ2 破る-CONDb また 書く-SEQ1

*uri tigami=ja ka-sa-N*

この 手紙=TOP 書く-PST-IND1

### 参考引用文献

Michinori Shimoji, Thomas Pellard (ed) (2010) *An introduction to Ryukyuan Languages*, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies

亀井孝・河野一郎・千野栄一 編著 (1997) 『日本列島の言語』三省堂

国立国語研究所 (2001) 『沖縄語辞典』財務省印刷局

又吉里美 (2015) 「津堅方言の動詞の記述—動詞の形態とテンス・アスペクト—」『琉球の方言』pp.117-140

方言文法研究会 (2010) 『『全国方言文法辞典』のための条件表現・逆接表現調査ガイドブック』

\*<sup>1</sup> 亀井他 (1997) では、首里方言の語幹について次のような説明が見られる。

一般に、「読まない」「読む」「読んだ (あるいは、読んで)」などに対応する3種類の語形が、首里で、それぞれ'junuN①〔古〕~'jumuN①〔新〕「読む」、'jumaN①「読まない」、'judaN①「読んだ」(あるいは'judi①「読んで」)であることを知れば、他の語形を類推しうるのが普通である。この3種のそれぞれに含まれている語幹(首里'jun-〔古〕~'jum-, 'jum-, 'jud-)は、服部四郎・金城朝永の「琉球語」(1955)以来、それぞれ、連用語幹、基本語幹、音便語幹のようによびならわされている。[亀井他1997: 348] ※①は首里方言のアクセント平板型を表す。

津堅方言も首里方言と同じく、強変化動詞において語幹に3種類の語形が見られる。上記の考えにならって、3種類の語幹を立て、基本語幹、連用語幹、音便語幹として扱う。

\*<sup>2</sup> 活用のタイプは大きく規則変化と不規則変化に分けられ、さらに規則変

化は強変化動詞と混合変化動詞に分けられる。強変化動詞は語幹末が子音終わりの動詞で、基本語幹、連用語幹、音便語幹を持ち、連用語幹を含む動詞基本形は-*uN*である。音便語幹には促音便語幹はなく、脱落音便に統一される。強変化動詞はタイプAとBに分けられる。タイプAでは、基本語幹と連用語幹は同形である。強変化タイプBは、基本語幹、連用語幹、音便語幹の3つにおいて異なる形態である。混合変化動詞は、基本語幹は強変化動詞と同じ子音終わりの語幹であるが（すべて*r*語幹末である）、連用語幹は母音終わりの語幹である。タイプAは-*N*語尾、タイプBは-*iN*語尾である。詳しくは又吉里美（2015）を参照。

- \*<sup>3</sup> 津堅方言の形容詞化接辞-*ha*は、-*ha*と*h*の脱落した-*a*とで揺れが見られ、*takahaN*、*takaaN*の両形が見られる。そこで、*takaaN*は表層形として扱う。一方、*takahaN*は表層形でもあり、基底形でもある。
- \*<sup>4</sup> 「元気な」などの形容動詞は「第2形容詞」と呼ばれることがある。琉球方言における「第2形容詞」について、以下の記述が見られる。「一方、第2形容詞は未発達のままであって、首里などで、少数の本土のからの借用語にみられるが（首里*mju:na*①「妙な」など）、その連体的な語尾-*na*も、本土方言からの借用である。」[亀井他1997:348] ※「*mju:na*①」の①は首里方言のアクセントの下降型を表す。
- \*<sup>5</sup> インフォーマントは津堅島出身のO.T.(S3生、女性)、戦後、沖縄市へ移住している。調査は2015年7月～11月にかけておこなった。
- \*<sup>6</sup> 調査表は大きく2つの観点に分かれている。1.従属節用法、2.非従属節用法である。紙幅の都合上、1.従属節用法の調査データを提示する。したがって、調査項目は、全部で79項目あるが、本稿で示すデータは、(1)～(57)の調査項目である。また、-*riba*形、-*ine*形が主に現れるのは1.従属節用法の項目においてである。2.非従属節用法の部分の調査データについては稿を改めて示すこととする。

## グロス一覧

ACC	accusative	対格	INF	infinitive	限定用法の形容詞
			INFR	inferential	推量
ADD	additive	添加	INT	intentional	意志
ADJ	adjectivizer	形容詞化	LMT	limitative	限定
ADN	adnominal	連体/名詞化	LOCK	locative	場所格 <i>Nka</i> 形
ADVRS	adversative	逆接	LOCz	locative	場所格 <i>Nzi</i> 形
ALL	allative	向格	NEG	negative	否定
CONDb	conditional	条件 <i>riba</i> 形	NOM	nominative	主格
CONDn	conditional	条件 <i>ine</i> 形	NPST	non past	非過去
COP	copula	コピュラ	POT	potential	可能

CSLg	causa l	理由gutu形	PROG	progressive	進行
CSLk	causa l	理由kara形	PST	past	過去
CSLm	causa l	理由muN形	PURP	purposive	目的
DAT	dative	与格	Q	question particle/ marker	疑問
DSC	discourse marker	談話標識	REC	recitation	列挙
FOC	focus	焦点	SEQ1	sequential converb	中止形1
GEN	genitive	属格	SEQ2	sequential converb	中止形2 = テ形
IMP	imperative	命令	SFP	sentence-final particle	終助詞
IND1	indicative	いわゆる終止形N形	TOP	topic	主題
IND2	indicative	いわゆる終止形ha形			
IND3	indicative	いわゆる終止形wa形			

### 付記

本稿は、2012年度～2015年度基盤研究（A）（課題番号24242014）「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」の研究成果の一部です。